

企画展

管理

人

の

お仕事

蕉夢庵の施設管理



入館
無料

2026 1.9 金

3.1 日

宇城市立郷土資料館

所在地 宇城市豊野町糸石 3818
TEL 0964-32-1954(文化スポーツ課)
0964-45-2102(資料館)

開館時間 10～17時
休館日 月・木曜日
(祝日の場合は翌日休館)

主催 宇城市教育委員会

協力 宇土市教育委員会

宇城市不知火町桂原^{かずわら}に所在する蕉夢庵跡^{しょうむあんあと}（宇城市指定史跡）は、5代宇土藩主^{うと} 細川興文^{おきのり}が隠居^{いおり}後に余生を過ごした庵の跡地です。この庵の周辺は景勝地で、興文はよく鹿狩りに訪れるなど、その景観を大層好んだといひます。山麓^{さんりふ}には芭蕉^{ばしやう}が茂り、鹿^{しか}が嶺^{みね}を下りてくる様子から、列子^{れつし}の説いた「蕉鹿夢^{しょうろくのゆめ}」になぞらえ、庵は「蕉夢庵」と名付けられました。

興文は、宇土市に巡らされた日本最古の現役上水道である轟泉水道の整備に見られる産業の振興、藩校^{おんちかん} 温知館^{わけつかん}や武館^{ぶくわん}を設けた教育制度の整備など、宇土藩政において多大な功績を残しました。月翁^{げつおう}と称した隠居後も藩政に関わっており、晩年においてもなお持ち続けた藩政に対する思いと、周囲の素晴らしい景観の中で過ごす余生を「蕉鹿夢」で説かれる「夢と現^{うつつ}」になぞらえたのではないかとされています。

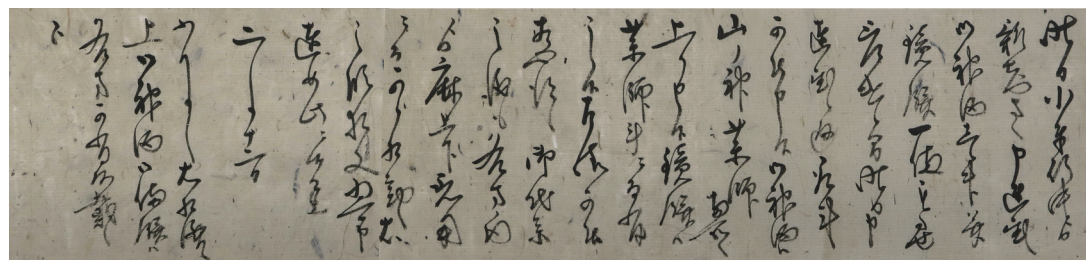
蕉夢庵は、隠居前に興文が自ら設計するほどのこだわりを盛り込んで建てられた庵でした。隠居後も、文化人であり名君であった興文を慕い、多くの人々が蕉夢庵を訪れたといひます。しかし、そのような興文の隠居生活を裏で支えた人々がいたことはあまり知られていません。

本企画展では、近年宇城市内で新たに発見された古文書を中心に、蕉夢庵における日常管理の裏方を担った人々に関する史料を展示します。江戸時代の施設管理、知られざる裏方の管理人のお仕事をのぞいてみませんか？



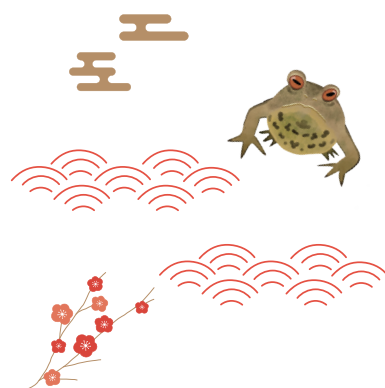
▲ 明和九年覚書

蕉夢庵管理者としての肩書改称を申し渡す通達



▲ 明和九年書状

蕉夢庵に届ける御神酒と鏡餅の扱いに関する書状



▲ 蕉夢庵棟端瓦

（宇城市指定有形文化財）

宇城市立郷土資料館

宇城市豊野町糸石 3818
TEL 0964-45-2102

宇城市公式 HP



企画展
特設ページ



施設情報



同時開催



蒙古襲来絵詞

場面展示 公開中 （複製品）

絵5 元軍に攻め込む竹崎季長と白石通泰の軍勢
1月28日⑩まで

絵6 矢を射る竹崎季長の軍勢と逃げる元軍兵士
3月1日⑩まで

※今後月替わりで全場面を展示

